

第2回伊賀・山城南定住自立圏共生ビジョン懇談会での意見・対応一覧

番号	ページ	項目	意見種別	ご意見等	対応区分	ご意見への対応	本文修正
1	9	圏域の状況	意見	伊賀市への通勤・通学の状況の表で本市となっている部分は伊賀市と表記したほうがよい。	回答	修正する。	修正
2	10	圏域の状況	質問	救急車搬送件数の関係で、笠置町や南山城村から伊賀市に救急搬送されることはあるのか。このビジョンをきっかけに伊賀市に搬送される可能性は考えられるか。	回答	県境の交通事故等では、伊賀市に搬送されることもあるかと思うが、自宅等で倒れた場合は、ほぼ西に向いて搬送されると思う。病院の搬送の件は、すぐには無理かもしれないが、今回の連携については、そのような視点も入っており、継続して協議していくことになると思う。	—
3			意見	【関連意見】救急搬送については、特に南山城村は伊賀市にも近いことから、要望も強いと思う。取り組みの中の大きな項目になってこようかと思うので、現状をしっかりと押さえていただければと思う。			
4	10	圏域の状況	質問	伊賀市応急診療所の患者者数の表があるが、今現在、笠置町・南山城村の住民は受診できるのかどうか。	回答	実績としてあがっているので、現状も受診していただいている。	—
5	10	圏域の状況	意見	教育機能の部分で、「伊賀市には、多数の学生が通学しています。」とあるが、伊賀市内の県立高校に京都府の笠置町なり南山城村の子どもたちが通学するという事は、制度的には現在は無いのではないかと思う。伊賀白鳳高校のデザイン課には通学できるが、それ以外には通学ができないのではないかと思っている。そういった意味では、表に3つの県立高校を並べているが、笠置町・南山城村のところには、ほとんどゼロが並んでしまうのではないかと思う。もう一度数字を精査した上で、表現をご検討いただけたらと思います。		府県教育委員会への要望も含めて取り組む予定をしているが、実数については、あまり無いと思う。人数等を確認して、表の載せ方や表現方法について検討する。	
6	11	圏域の状況	質問	産業別就業人口の中で、笠置町・南山城村が第3次産業が多いのは、なぜか。その内訳は。	回答	第3次産業の中でも特に卸売業・小売業、医療・福祉関係の割合が高い。また公務員の割合もやや高い。[参考：公務員割合(伊賀市3.45%、笠置町6.38%、南山城村5.58%)] なお、文面については、より地域の特色を反映させた記述に修正。	修正

番号	ページ	項目	意見種別	ご意見等	対応区分	ご意見への対応	本文修正
7	13	圏域の将来像	意見	「お互いが有する強みを持ちより弱みをカバーしあい」という文面があるが、「カバーしあい」の部分が文章的に浮いてしまうように感じるので、「弱みを補い合い」のような表現のほうがよいのではないか。	回答	「…弱みを補い合い」に修正する。	修正
8	13	圏域の将来像	意見	「住みなれた地域」という表現について、新たに入ってくる住民の意識を軽視しているような味方もできると思うので、別の言い方ができないか。	回答	<p>標題を「住みなれた地域で安心して暮らせる」から「圏域でつながり、暮らしの安心を支える」に修正し、文章を「住みなれた地域…」を「住み続けたい地域…」に修正する。</p>	修正
9			意見	【関連意見】一方で今住んでいる人が、外に出て行かれないように、ずっと暮らしていけるようにという思いもあるところなので、この文言は残してもらえるとありがたい。			
10			意見	【関連意見】定住自立圏の基本的な考え方に、いかに留まっていたかという問題があると思うが、地域とは新たな人が入って来て留まる、また出て行かれる方がいるというような相乗効果があると思うので、文面的には限定しているわけではないのかと思う。			
11			意見	【関連意見】住みなれた地域であり、住みたい地域である。今住んでいる方も住み続けたい、入ってこられる方もここならば住みたいという思いをとっていったほうが良い。人口は流動的なものであり、住みたい・住み続けたい地域という思いが込められても同じ様な意味合いになるのではないか。			
12			意見	【関連意見】住みたいというと、今いる人も移住者も両方含むと思うので、どこかに住みたいという表現を文章の中でもいいので入れればどうかと思う。			
13			意見	【関連意見】冒頭のタイトルを変えては。住みなれた地域で安心して暮らせるというのは、ひとつの自治体でも同じことであり、圏域としてのビジョンを打ち出すのであれば、圏域というキーワードを使って、「圏域でつながり、安心して暮らせる」という表現にして、文章を「住みなれた地域…」を「住み続けたい地域…」とすれば、今までの意見を一定吸収できるのではないか。			

番号	ページ	項目	意見種別	ご意見等	対応区分	ご意見への対応	本文修正
14	14・15	圏域人口の将来目標、高齢化率	意見	人口ビジョンは希望的観測であり、正直達成できないと思う。希望的観測の数値をあたかもリアルのように書くと、計画自体をその数値目標に合わせて記載することになるので、色んなところに無理を及ぼすことになるので、やめたほうが良い。連携する取組が実行されているにも関わらず、実際の人口や高齢化率により、計画が達成されないことになる。おそらく頑張っ社人研推計とビジョンの間ぐらいに収まるのが現実的だと思う。社人研推計とビジョンをどちらも実線にし、その間が網掛けになっており、タイトルも考慮されるほうが、計画としては、実際ではないかと思う。	回答	国の要綱では、社人研推計を参考にするとともに、人口ビジョンとの整合を図りながら設定するとある。それぞれに自治体で人口ビジョンを目標に取り組みを行っていることから、社人研推計と人口ビジョン推計を並べる形でのグラフは残しつつ、文章を修正する。	修正
15			意見	【関連意見】確かに人口ビジョンを達成することは難しいと思うが、各自治体がビジョンを作り、それに向けて事業を行っているので、打ち出せば用と思う。また社人研推計との間の数値を推計することは難しいのでは。			
16			意見	【関連意見】間の数値を新たに推計するのではなく、社人研とビジョンの推計の間を網掛けにし、間に収まればよしという見せ方にしてはいかがか。			
17			意見	【関連意見】社人研推計と人口ビジョンをどちらも実線にするならば、間の網掛けは無くてもよいかも。			
18			意見	【関連意見】人口の将来目標とあるので、やはり社人研推計よりは上を目指したいということをはっきりするのであれば、網掛けにして間を狙うという見せ方は必要かと思う。			
19			意見	【関連意見】各自治体の取り組みは、決して間を狙うのではなく、人口ビジョンを目標にして取り組んでいるので、間に収まればよいという議論にはならないと思う。またこの計画(共生ビジョン)だけで、ビジョンの数値を目指すものでもない。であれば、網掛けも何もなくて、客観的な数値として、社人研、人口ビジョンの自治体の合計数値を記載すればよいのではないか。その場合、見出しを考える必要がある。			
20			意見	【関連意見】ビジョンは5年間の計画であり、毎年度達成度により見直すものなので、ある程度高い数値でも良いのではないかと思う。			

番号	ページ	項目	意見種別	ご意見等	対応区分	ご意見への対応	本文修正
21	17	役割	意見	タイトルの関係で、「8. 中心市と連携市町村の役割」とあるが、連携市町村の市はいるのか。	回答	いない。修正する。	修正
22	17	役割	意見	役割を各市町村で共有するために記載されていると思うが、PDCAサイクルを含む最後の文章は、役割ではなく目的ではないかと思う。役割については、もう少しパンチの強い文章にして、下の文章は別項目にすればよいのでは。パンチの強い文書については、備前市のように各市町村それぞれの役割を表記してみてもどうか。	回答	下の文書については、別項目を設ける。なお各市町村の役割については、第4章の各施策の中で、それぞれ記載。	修正
23	18	取組の体系図	質問	圏域マネジメント能力の強化の2つ目の施策は、外部からの人材育成となっているが、人材確保ではないのか。	回答	誤りのため修正する。	修正
24	—	医療	意見	救急搬送の問題等で、できるだけ近くに搬送されるような取組を強化いただきたい。生活面で安心できるような取組にしていただけるとありがたい。	参考	—	—
25	—	健康・福祉	意見	高齢・障がい・福祉事業について、講座や啓発事業だけでいいかと思う部分がある。笠置・南山城には入所施設が無く、伊賀市の施設に入所するには居住地を変えて行かれていた方がたくさん居る。木津川市や精華町に施設はあるが、伊賀市にくるほうが近いので、これから検討していければと思っている。	参考	—	—
26	—	産業振興	意見	伊賀市の情報は優先的に中京圏に飛んでいく。また笠置・南山城の情報は関西圏に飛んでいく。まず伊賀市の情報が関西に飛んでいかないと、笠置・南山城と一体化しないというようなイメージがある。伊賀市の情報が関西圏に、併せて笠置・南山城の情報が中京圏にいくような仕組みができれば、更に情報発信が進む。連携している事業が目につくようにすべき。	参考	—	—
27	—	産業振興	意見	伊賀市の観光客の9割が自動車である。リピーター率が高いという特徴もある。旅行は普段行かない非日常の世界に行く場合もあるが、このエリアは関西圏・中京圏の中に入っているわけで、日常的な観光地。1ヶ月に1回は訪れるみたいな場所。つまりリピーターに対して新鮮なネタが都度都度必要である。大阪からも車で来るリピーターが居るので、今日は笠置を回って行こうという部分をこれからは拾っていく必要があると思う。	参考	—	—

番号	ページ	項目	意見種別	ご意見等	対応区分	ご意見への対応	本文修正
28	—	産業振興	意見	観光等についても色々連携しようという話が出るかと思うが、各市町村の観光協会等とも協議しながら進めたほうが、より事業が前進すると思う。	参考	—	—
29	—	産業振興	意見	ハローワークの募集・応募は両府県で相互に活用できているか。	参考	—	—
30			意見	【関連意見】現在でもできている。各企業に対しても徹底していくことで拡がりがあるのでは。			
31	—	産業振興 公共交通	意見	観光や人の交流を考えた場合、交通手段が重要となる。関西本線の充実(ICカードのエリア拡大)や国道163号の南山城バイパスが開通したので、伊賀から京都へ行くルートや京都から伊賀市へ来るルートなどの中で笠置町・南山城村を経由したようなマップができ、情報発信できればと思う。	参考	—	—
32			意見	【関連意見】伊賀市の中でも関西本線と伊賀線の関係や、関西線とバスの関係など、交通網の連携がとれていない部分がある。現在伊賀市の中で公共交通の最適化について協議をいただいているので、その辺も含めて協議いただければ。			
33	—	産業振興 公共交通	意見	関西本線に乗っても多くの外国の方を目にする。インバウンドのことを考えても、海外の方のことを考えた情報発信や表示等についても大切にしていけるようなこともあげていければと考えている。	参考	—	—
34	—	ICT活用	意見	広報に関して、役所や観光協会等のそれぞれの施設で、それぞれの広報をはじめとした情報誌を置くスペースを設けていただければと思う。	参考	—	—
35	—	ICT活用	意見	ケーブルテレビにより、それぞれの地域の情報収集等ができれば良いと思う。	参考	—	—
36	—	地産地消	意見	道がよくなっているだけに、地元が見えなくなっている部分もあるので、道の駅等でも、そのエリアの情報をしっかりと発信し、また着地型の基点として、まちの中に誘導していくようなシステムがこれからの道の駅には必要であると思う。	参考	—	—

番号	ページ	項目	意見種別	ご意見等	対応区分	ご意見への対応	本文修正
37			意見	圏域の活力を考えた場合、事業者や市民活動団体の交流の場が必要。結びつきやネットワークの強化等の中でも位置づけられないか。そういった場面があると、民間レベルでの結びつきの拡大が図れるのではないかと思う。			
38	—	内外交流	意見	【関連意見】現実的には、現在も南山城の茶の祭りの際には島ヶ原から足湯を出したり、また正月堂の祭りでは、南山城村の方に行事にも入ってもらっており、その他の事業でもやっていくという意味では、事業の拡大ということになるかと思う。夏祭り等でも連携していけば、違った形になると思う。	参考	—	—
39	—	人材育成	意見	圏域内職員の人材育成については、既存メニューの範囲内に留まらず、圏域連携の関係性を深めるような共通の政策課題や物品の共同購入、スケールメリットのある調査など、マネジメントの広域連携を深めていけると良いのではないかと思う。お互いの事務の内容の共有や政策課題についての共同の研究・検討などについて研修という形で行うことなど、それぞれの自治体のことを知ることを種まきとして行うことが、これからの活きるのではないかと思う。	参考	—	—